獄中詩

鼓動

布施杜生

獄中詩

鼓勵

布施杜生

永田書房刊

遺稿集

獄中詩　鼓動

昭和五十三年八月十日　印刷
昭和五十三年八月三十日　発行

定価　二、五〇〇円

著者　布施杜生

発行者　永田龍太郎

発行所　株式会社　永田書房

東京都目黒区鷹番三―七―十三
電話（七一二一）二七七〇
振替（東京）四―九七六〇八

印刷　宝印刷㈱
製本　㈱美成社

© 1978 Morio Fuse　Printed in Japan

編集責任者　永田龍太郎

監

修

中野重治

野間宏

装　幀　田村義也

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.

鼓動目次

書簡

中野重治宛（獄中より）……9
松本広治宛（　〃　）……25
布施辰治宛……29

詩

雪解する午後

雪解……52
昼間の月……59
叙事詩・君は孫悟空のやうに……61
叙事詩・ともだち同士……77
つばめの楽譜……169
我が兄に……172
道普請……189

仔犬
夜が冴え……192
寒い朝……193
四匹の仔犬……194
正月の惨事……197
獄中歌——絶筆
鼓動短歌抄……201
評論
芸術及び芸術論の機構について……231
「北東の風」と「陸を往く船」のテーマについて……266
布施杜生略年譜……283
解説　久保田正文　290

鼓

動

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.

中野重治 宛（東京都世田谷区世田谷二の一一七二）

昭和十四年四月十九日

中野さん、お元気ですか。全く久しぶりで手紙をかきます。うろ覚えに思ひ出したお転居先の住所宛にかいて見ます。再転居されたら転送されてつくでせう。着かなかつたら戻つて来る訳でせうね。手紙ついたら早速お返事下さつたらたのしみです。警察にゐる時、風のたよりに、原泉子さんが聖路加病院で子供生れたと云ふこと聞きました。赤ちやんは丈夫ですか。原さんはからだはいいのですか。現実の発展は面白いものですね。中野さんは今も市役所に勤めて居られるのですか。御近況はどうなのですか。時におひまな折にお手紙かいて下さい。ぼくは元気で、却つて神経衰弱が直り、心身ともずつと丈夫になつて来たやうです。はじめ中京の刑務所でしたが、一昨日の午後、山科のここへ引き移つて来ました。ぼくは独居に来て短歌が出来るやうになり、俳句も少し出来、それから再び詩が出来ます。ぼくは推敲することをおぼえて、毎日たゆみなく口で諳んじて作つてます。それらを見せたいのですが、詩や歌をかくのは禁ぜられてゐるさうで、辛抱しませう。いづれ四方山の土産を喜んで貰ふ時もありませう。読書は日本文学と日本歴史と古典を主としてよむつもりです。まず手始めに竹越の二千五百年史をよみ、いま新井白石のもの

よんでます。哲学の本はスピノーザをよみかけてます。こんな訳で仲々賑かです。ある人から生活の苦労なく読書と静思を続けられる現在のご境遇は羨しくさへ思へると云つて来たので、たしかにぼくは生活の苦労と云ふ点では身勝手なもので、気にかかりました。併し、それだけ将来の生活の設計に余念なく暮してるつもりです。まづはお芽出たう！

京都市東山区山科東野井上町二〇　布施杜生

昭和十四年四月二十七日

中野さんお住所のこと父にも問ひ合せてあつたのが、返事が来て、間違いないとのこと、それで早速又手紙書きます。赤ちやんお丈夫に！男ですか？女ですか？原さんによろしく云つて下さい。太田慶太郎さんから牛乳の差入がつづいてあり、思ひがけない喜びでした。太田さんのお住所わかつてたら教へて下さい。ここでは自分の神経質な誤解にわれから悩むことも多いが、思ひがけない喜びがありますね。大学の方は父からの手紙によれば、さし当り無期停学を以て判決の結果を待つらしい見込みとのこと、さう云ふ寛大な方針であれば思ひがけない喜びです。この一つのことについても日本の歴史が大きく動いてるやうで、その現実の発展に対して、ぼくは不安でもあり、又、心のときめくやうな喜びをも感じます。今こそ真に徹底的に正しい民族の歴史が書

かるべき時と思ひます。ぼくらこそやがて日本文学と日本精神史との正嫡流を伝ふべきものとの自覚を強めてます。日本文学の勉強について、ぼくも追々書きますが、どしどし助言して下さるよう、ぼくによませたい本あつたら、すぐに知らせて下さるようお願ひします。さし当り家にある国民文庫と国書刊行会叢書（共に明治四十二年頃発行）と云ふのを読破して見るつもりです。それからぼくはつひに斎藤茂吉をよみました。検挙される前の夏休に「童馬漫語」と自選歌集「朝の螢」とよみ、警察にゐるとき、茂吉の短歌評釈の「新選秀歌百首」と云ふのを熱心によみました。非常にうれしいことは短歌や俳句、山科のここでは、書くことかまはぬとのことです。

○母が入れし着物縞物着初めぬる
　ひとりゐのまま大人ならむ

○ここに来て神経衰弱直れるを
　諸方へ知らすわれをいとほしむ

○雨空に切れ青き空が見ゆ
　日ざし日洩る鉄格子窓にしまらく

○飯食すわれのこめかみうつり青塗りの
　鉄戸へ背なに朝日子日ざす

○山べの朝日子けぶる屋根の棟
　雀子来立つ丈育つらし

○晴れ着のむすめの横顔編み笠に
　ひたに見つめつつわが過ぎ行けり
○女生徒がＡＢＣを一心にならふ声
　よぎればちさき中学生二人

昭和十四年五月二十九日

中野さん、おハガキ来ました。全く例の調子でなつかしく思ひます。お元気なのがうれしく思ひます。女の子の赤ん坊は何と云ふ名前ですか。原さんの健康はいかがですか、よろしく云つて下さい。この頃また少しづつ書いてゐられる由、心強く思ひます。小説を書いてゐますか。ぼくも小説のプランを持つてます。長篇小説「蘇我の息子」、又は「息子の懺悔録」と云ふのを書きます。発端と大団円の所は、もう出来てます。時々口の中で朗読して、よろこんでます。そして考へると、ぼくの虎の巻は、何と云つてもルソオの「懺悔録」です。ルソオの「懺悔録」よりは小説として完成された形のものになる筈ですが、人間としても、後進者であるぼくは、ジャンジャック・ルソオより完全な人間になるつもりなこと勿論です。大体さう云う所を目ざしてます。間違ひでせうか。ぼくは今将来の労作のプランを四つ持つてます。第一「獄中詩歌集」第二「蘇我の息子」第三「論理学序論」第四「民族史の概念及び方法」。「論理学序論」は前からの「哲学的

科学と芸術理論」についての考の発展です。この四頭立の馬車を馳つて行きます。たゆみなく暮してます。今「万葉集略解」をよんでますが、あまりに簡単なので、京都の友だちに、時々近代文学のものを入れてくれるよう頼みました。中京の貸本で、有島武郎「或る女」、里見「多情仏心」と広津柳浪のものを夫々面白くよみました。ぼくは外にゐる時、経済雑誌はまるで見なかつたのが、ここでは「ダイヤモンド」見てゐます。それから太田さんへは、父から手紙が来て、お住所わかつたので、すぐ手紙を出しました。太田さんには親子揃つて、いつもお世話になつてます。ぼくの父の事件はどうなつたのか。父の手紙によれば、五月十一日に上告審の判決云ひ渡があつた筈、即報するとありながら、いまだに便りがないのですが、延期にでもなつたのか。いづれにせよ、よかれあしかれ、今ぼくの家は、却つて徹底的に若返りになるのではないかと思つてゐます。

昭和十四年六月二十九日

中野さんお元気ですか、又しばらく立ちました。つゆになりましたが赤ちやんも原さんもお元気ですか、よろしく云つて下さい。ぼくは元気で相変らずに暮してゐます。既に御承知と思ひますが、ぼくの父は、つひに上告棄却有罪確定して下獄しました。病気の妹を見ながら、後に残つた母一人は、実に気の毒です。ぼくとしては一層緊張して生活して行くばかりです。中野さんは

ぼくにとつて、一番よくぼくの気心をわかつてくれる長兄のやうな人なのですから、ぼくはやはりマメにかきませう。「万葉集略解」遅々として進みませんが、道草喰ひ乍ら摘んで行きます。「日本文芸論」をよみかけてゐます。ぼくは弱い頭なので、あまりたくさん本はよめませんが、熱心に詩や歌を作つてゐます。母のこと思つて短歌が出来ました。かいて見ます。これ迄出来たうち、一番いい歌が出来たと思ひ、喜びに耐へぬのですが、ぼくの作歌について忌憚なく批評して下さることを望みます。

獄の人に病む娘見つつ若くより
　書かずなれる母書くらむか
よもやに引かされて老いぬれど
　あが恨云う時には非じわがせを思へば
身に欲りするまなく父や子供たち
　見るに見兼ねて老いぬる母は
行末のわをわが母は赤子にて
　死なせる男の児思ほすらむか
弱き子はやゝ強くなればいかやうに
　思へば巣立つまにぐれたるらむ
弱き子が羽傷きて帰り来む

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.